

「まだ小さいから」

連日、水害のニュースが報道されています。「当たり前」のことが「当たり前」でなくなっている様子に、他人事ではないことを感じると共に、日々笑顔で過ごせる「今」が、なんて「幸せなこと」なのだろうと感謝の気持ちになります。

先日、被災された方のための『義援金』について、子どもたちに新聞の写真を見せながら話したところ、「知ってる！」と声を上げる人の多いこと。お家の方とテレビのニュースを見て衝撃を受けていることが伝わってきました。そして、『私たちができること』について投げかけると、「土をどかす」「物を運ぶ」など、やはりボランティア活動の様子を見ているような発言がありました。翌日から、何人もの方が自分の手で義援金を入れています。親子で災害の話をしながらいれてくださっている様子もありました。

このようなひとつのことからも、子どもたちは生活の中で「見るもの」「聞くもの」から多くのことを吸収しています。

近くにいる人の姿からも多くのことを吸収しているのです。幼稚園では、年上の方の姿は魅力的で、運動会後は年少さんの踊る姿が多く見られ、踊る曲を決めては「ジャンボリミッキーかけてください」「次はフジキュン体操かけてください」と、大きな声でリクエストしています。曲についてもそうですが、お願いの仕方も「真似」することができています。自分で「できた」ことが嬉しくてたまらない様子です。ここに「まだ小さいから」と「自分で」を邪魔されることがないことが大切です。

子どもは子どもなりの受け止め方で、自分で考え行動しています。そこに心をたくさん使っているので「できた」「成功した」ことが、大きな喜びになり、心に残るのです。そんな経験を積み重ねることを大事にしていきたいです。

モンテッソーリは「子どもも人格を持ったひとりの人間として尊重する」ことを教えてくれています。「まだ小さいから」無理かどうかは、少し見守ってから「自分で」納得できるようにフォローしていきたいものです。「成功」のために。

2019.10.30

古郡 愛子